

# 大豆管理情報 (第1号)

令和5年6月30日

農業技術課 広域普及指導センター

## 1 気象経過

### (1) 気温

5月下旬は、19.3℃（対平年差+0.3℃）と平年並であった。

6月上～中旬は、21.6℃（同+0.8℃）と平年に比べ高かった。

6月5半旬は、23.7℃（同+1.5℃）と平年に比べ高かった。

### (2) 降水量

5月下旬は、5月29日の大雨の影響もあり、83.5mm（対平年比231%）と平年に比べかなり多かった。

6月上～中旬は、6月2日の大雨の影響もあり、173.0mm（同238%）と平年に比べかなり多かった。

6月5半旬の降水量は8.0mm（同20%）と平年に比べ少なかった。

梅雨入りは、6月11日（平年6月11日、前年6月6日）であった。

### (3) 全天日射量

5月下旬の平均日射量は、17.8MJ/m<sup>2</sup>/日（対平年比93%）と平年に比べ少なかった。

6月上～中旬の平均日射量は、18.2MJ/m<sup>2</sup>/日（同99%）と平年並であった。

6月5半旬の平均日射量は、17.6MJ/m<sup>2</sup>/日（同113%）と平年に比べ多かった。

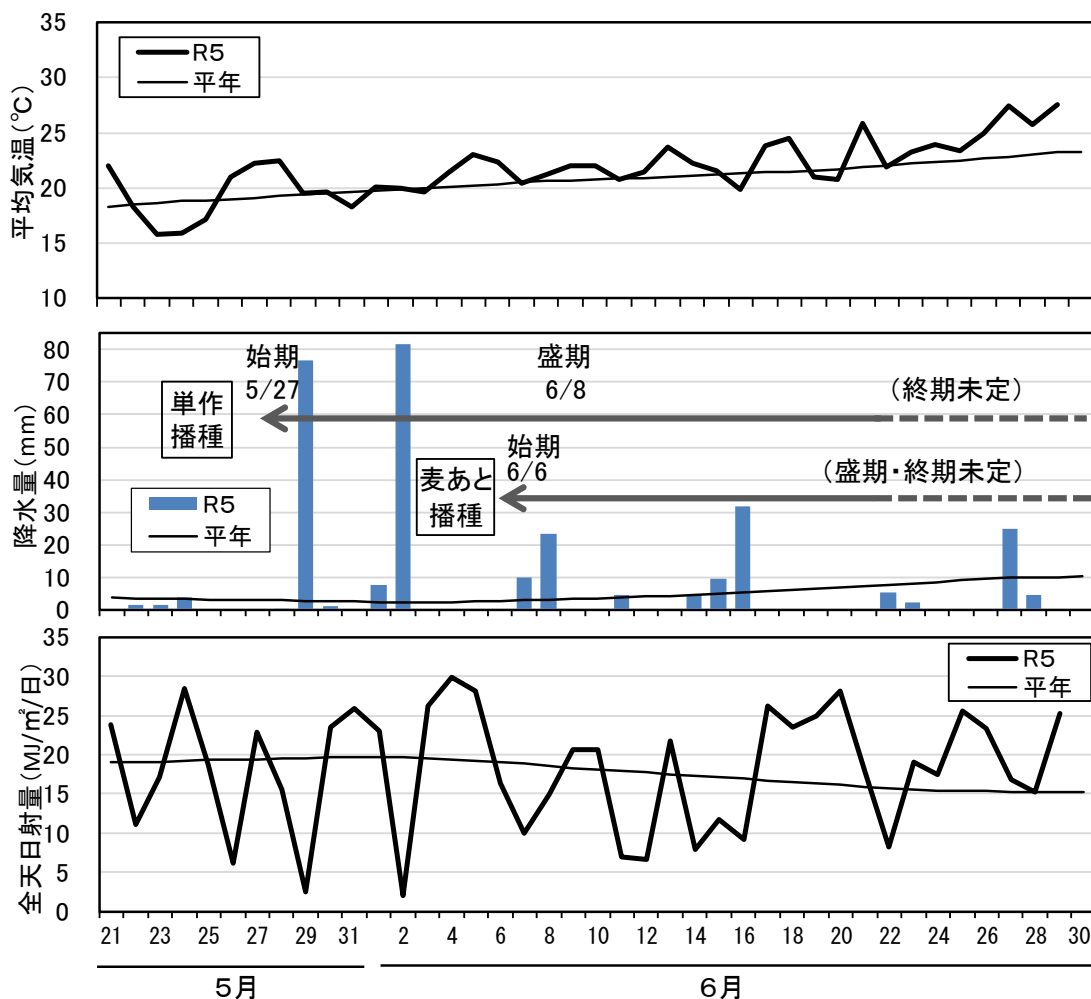


図1 令和5年の気象経過（富山地方気象台）

※播種時期は農林振興センター調べ（6月22日現在）

## 2 苗立・生育状況（生育観測ほデータ）

### （1）エンレイ（単作）

- ・播種時期は、6月7日と平年より8日遅かった。苗立率は94.0%と平年並、苗立本数は17.4本/m<sup>2</sup>と平年よりやや多くなった。
- ・主茎長は17.0cmと平年に比べ短く、本葉葉数は2.7葉と平年に比べ1.9葉少なくなっている。

### （2）エンレイ（麦あと）

- ・播種時期は、6月5日と平年より1日早かった。苗立率は91.5%、苗立本数は16.5本/m<sup>2</sup>と平年並みであった。
- ・主茎長は15.8cmと平年に比べやや短く、本葉葉数は3.5葉と平年に比べ0.5葉多くなっている。

### （3）シュウレイ

- ・播種時期は6月11日と平年より6日遅かった。苗立率は88.0%と平年並、苗立本数は13.0本/m<sup>2</sup>と少なくなっている。
- ・主茎長は12.7cmと平年よりかなり短く、本葉葉数は1.6葉と1.1葉少なくなっている。

表1 大豆生育観測ほ等調査結果（6月30日調査）

品種	設置場所	播種月日 (月日)	苗立調査		生育調査(6月30日)			
			苗立本数 (本/m <sup>2</sup> )	苗立率 (%)	主茎長 (cm)	本葉葉数 (葉)	一次分枝数 (本)	
エンレイ	単作	R5	6月7日	17.4	94.0	17.0	2.7	0.0
		R4	6月2日	16.3	91.9	26.4	5.1	0.3
		平年	5月30日	16.4	92.3	24.3	4.6	0.1
	平年比・差	8	106	102	70	-1.9	-0.1	
	麦あと	R5	6月5日	16.5	91.5	15.8	3.5	0.0
R4		6月9日	17.7	91.1	18.1	3.4	0.0	
平年		6月6日	16.7	92.7	16.8	3.0	0.0	
平年比・差	-1	99	99	94	0.5	0.0		
シュウレイ		R5	6月11日	13.0	88.0	12.7	1.6	0.0
		R4	6月3日	15.5	85.7	23.1	3.7	0.0
		平年	6月5日	15.3	89.0	18.5	2.7	0.0
		平年比・差	6	85	99	69	-1.1	0.0

注)調査ほ場数:エンレイ(単作5、麦あと3)、シュウレイ(単作3)

注)平年値はH25~R4

注)平年比(差):苗立本数、苗立率、主茎長は平年比、播種日、本葉葉数、一次分枝数は平年差

## 3 当面の技術対策

- ・培土は時期を逃さず確実に2回実施する。培土後は排水対策を徹底し、梅雨時期の地表水の速やかな排水を促す。
- ・雑草が多い場合は、①雑草の種類や葉齢、②大豆の生育状況に応じて除草剤を適切に使用する。

### （1）培土・排水対策の徹底

- ・培土の効果を高めるため、適期（本葉2～3葉期と本葉4～5葉期）に2回培土を実施し、株元まで確実に土寄せを行う。ただし、培土は、ほ場が乾いている時に適正な作業速度で行う。
- ・出芽が不揃いなほ場では、生育の早い株に合わせた時期に培土を行い、出芽の遅い株が埋まらないよう低めで培土を行う。
- ・培土後は、培土でできた溝を額縁排水溝及び深く掘り下げた排水口にしっかり連結し、ほ場内に水が停滞しないようにする。

(2) 早めの雑草対策

- ・ 2回の培土を確実に実施し、雑草の発生を抑える。
- ・ 雑草が多い場合、①雑草の種類や葉齢、②大豆の生育状況 に応じて除草剤を適切に使用する (表2)。
- ・ 難防除雑草 (帰化雑草等) が発生するほ場では、雑草の種類に応じて効果の高い除草剤を選定し、雑草が大きくなる前に防除を行う (表3、図2、3)。
- ・ ほ場周辺 (畦畔、農道等) で難防除雑草の発生がみられたら、速やかに防除 (除草剤散布、地際からの刈取り) する。

表2 大豆の生育期処理除草剤

種類	適用雑草	除草剤名	使用方法	使用時期			使用回数	除草効果についての留意点	
				時期	雑草の生育ステージ等	収穫前日数			
選択性除草剤	一年生雑草	パワーガイザー液剤	雑草茎葉散布	全面散布	大豆出芽揃期～3葉期	雑草発生始期～2葉期	—	1回	・帰化アサガオ類は出芽後～つる伸長期までに散布する。
	1年生イネ科雑草	ナブ乳剤			雑草生育期	イネ科雑草3～5葉期	30日前まで	1回	・適用雑草としてスズメノカタビラを除く。
		ワンサイドP乳剤			雑草生育期	イネ科雑草3～5葉期	60日前まで	1回	・広葉雑草及びカヤツリグサ科には効果が期待できない。
		ポルトフロアブル			雑草生育期	イネ科雑草3～10葉期	30日前まで	1回	
	1年生広葉雑草	大豆バサグラン液剤			大豆2葉期～開花前	雑草の生育初期～6葉期	45日前まで	1回	・アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科、ツクサ科の雑草には効果が劣る。 ・イネ科雑草には効果がない。
		アタックショット乳剤			大豆2葉期～開花前	雑草生育期	45日前まで	1回	・ヒユ科、ナス科、スベリヒユ、イチヂ、帰化アサガオ類以外の一年生広葉雑草には効果が劣る。 ・イネ科雑草には効果がない。
非選択性除草剤	1年生雑草	ラウンドアップマックスロード	畦間処理	雑草生育期	-	前日まで	2回	・非選択性除草剤なので、大豆にかからないように十分注意する。 ・ザクサとバスタをあわせて3回以内	
		ザクサ液剤				28日前まで			
	バスタ液剤	畦間処理	雑草生育期	-	28日前まで	3回以内			
		株間処理	大豆5葉期以降 雑草生育期						
			大豆3葉期以降 雑草生育期						
ロロックス	雑草茎葉兼土壌散布	畦間・株間処理	雑草の草丈15cm以下	30日前まで	1回	・非選択的に作用するため、大豆の本葉にかからないように散布する。 ・イネ科雑草やツクサには効果が劣る。			
1年生広葉	タッチダウンiQ	雑草茎葉塗布	雑草生育期	-	7日前まで	2回	・専用器具を使用する。 ・塗布処理場所は茎とし、大豆の草冠より上の10～15cm部分に行う。		

吊り下げの専用ノズルを使用する

表3 難防除雑草 (帰化雑草等) に対する除草効果 (目安)

草種	茎葉処理剤						茎葉兼土壌処理剤
	選択性		非選択性				ロロックス
	大豆バサグラン液剤	アタックショット乳剤	バスタ液剤	ザクサ液剤	ラウンドアップマックスロード		
	全面散布	全面散布	畦間処理 株間処理	畦間処理	畦間処理	畦間処理 株間処理	
帰化アサガオ類	▲(種間差あり)	▲(種間差あり)	○	○	▲	▲(種間差あり)	
ヒユ類	▲(種間差あり)	○	○	○	○	○	
イヌホオズキ類等	▲(種間差あり)	○	○	○	○	○	

注1) ○: 効果が高い ▲: 効果が劣る

注2) 登録内容 (適用、使用方法等) を確認して使用する。

また、非選択性茎葉処理除草剤は、周りの作物にかからないように注意する。



図2 難防除雑草（帰化雑草等）に対する防除と管理の目安



図3 難防除雑草の幼植物

### (3) 病害虫防除

#### ① 茎疫病

- ・多湿条件で発生が多く、冠水は発生を助長する。
- ・常発地や冠水したほ場を巡回し、発生が認められた場合には、確認後直ちに地際部を中心に薬剤（Zボルドー粉剤DL、フェスティバルC水和剤など）を散布する。

#### ② 葉焼病

- ・強風雨でまん延し、多発すると収量・品質の低下をもたらす。
- ・発生が認められたら、薬剤（Zボルドー、フェスティバルC水和剤）で防除する。  
 なお、シュウレイは発病しやすいため、7月下旬頃に予防的に散布を行う。